

令和6（2024）年度

地域づくりを考える！青少年ボランティアセミナー ② 実施報告

実施日：令和6（2024）年9月28日（土）

第2回の地域づくりを考える！青少年ボランティアセミナーは、総合教育センターでの対面方式で行いました。

8月に行われた第1回は、受講者が対面とオンラインを選択するハイフレックス方式で行ったため、今回は受講者53名が初めて顔を合わせての研修となりました。



事例研究「地域づくり・ボランティアの事例から考える地域活動の在り方」

とちぎ市民活動推進センターくらら センター長 大波 龍郷 氏

始めの自己紹介を兼ねたアイスブレイクにより、受講者たちはにこやかにグループごとに会話をし、穏やかな雰囲気での研修がスタートしました。

大波氏は写真を多く使用したスライドを用いて、自身の活動を分かりやすく説明されました。地域の自然や人、古くからある建物などの文化を生かした町づくり活動を行っており、ものづくりや建物のリノベーションを通して、そこに集まってくるボランティアの人たちと活動している様子が伝わりました。そこで生まれた新たなものだけでなく、活動を通じて変化した人々の表情などの話もされました。



事例研究の後半は、質疑の時間となり、受講者から積極的に様々な質問が出ました。特に印象的だった内容は、「なぜ、そんなに人が集まってくるのか」、「地域の高校生を巻き込んでいくにはどのようにしたらよいのか」といったものでした。「人の紹介で、知り合いの知り合いが声をかけてくれる。」と穏やかに答えた、大波氏が人とのつながりを大切にしているのだということがよく分かる場面でした。

演習「これからの地域活動の在り方」

栃木県総合教育センター職員

「まわりの仲間たちと、たくさん話し合っ、これからの地域活動への意欲を高めていこう」というねらいのもと、グループワークを中心に演習を行いました。

受講者に仮想地域の情報を与え、その情報をもとにグループごとにその地域のわくわくプランを考えるというワークです。受講者は、「こんなことができたならおもしろいのではないか。」「これをやれば地域は盛り上がるのではないか。」と互いに意見を交わしていました。

前半はどんどん自分たちの理想を出し、後半はその意見の中からの的を絞り、より具体的なプランへと練り上げ、模造紙にまとめる作業を行いました。



完成後、受講者は他のグループのプランを見て回り、参考になった点などを付箋紙に書いて貼っていききました。自分たちのグループに戻ってきたとき、他のグループの人からの意見を参考に、その後の振り返りに生かしていききました。

受講者は互いの意見に耳を傾け、とても前向きに取り組んでいる様子が見られました。

閉講式

全2回の講座が修了し、2回とも出席した受講者に修了証が手渡されました。受講者は修了証を手につれしそうな様子でした。研修を終了した皆さんの今後の地域活動に期待していききたいと思います。



＜受講者の感想から＞

- ・事例研究から、自分の手でつくるという経験はつくれるという実感につながるというお話が印象的だった。
- ・自分の手の届く範囲の地域の幸せや喜びという考えが素敵で、気が楽になるような感覚になった。
- ・高校生とグループワークをすることは初めてだったが、大学生の私たちに無い考えを持っていて新鮮な体験ができた。
- ・斬新なアイデアほど皆で意見を出し合っ、実現可能性を高めていくのが楽しかった。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp